

後方視的解析による再発子宮体癌に対して Third-line 化学療法の有効性についての研究

1. 研究の対象

1990年1月から2017年12月までに当院で再発子宮体癌に対して化学療法を施行した症例です。

2. 研究目的・方法

現在、再発子宮体癌に対する根治は非常に困難であり、治療の立案にあたって治療効果のみならずQOLに対する十分な配慮が必要である。患者の状況や再発部位によって適宜、手術療法や放射線治療、ホルモン療法、化学療法、あるいは支持療法(best supportive care;BSC)が選択されます。そのなかでも再発した子宮体癌に対して抗癌剤化学療法後(second-line chemotherapy)に、再々発した子宮体癌への抗癌剤治療(third-line chemotherapy)を検討すべきなのか、支持療法を選択すべきなのかについて検討された報告はありません。そこで今回我々は再発子宮体癌に対する third-line chemotherapy の有効性について検討し、third-line chemotherapy の有効性についての予後予測因子等についても必要に応じて手術検体を用いて病理学的検討を行う。研究期間は平成36年12月31日までです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、手術記録、カルテ番号 等

試料：病理検体、採血検体

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

防衛医科大学校 産科婦人科学講座

〒359-8513 埼玉県所沢市並木3-2

電話：04-2995-1511（内線2363）

FAX：04-2996-5213

研究責任者：防衛医科大学校 産婦人科学講座 講師 宮本守員